

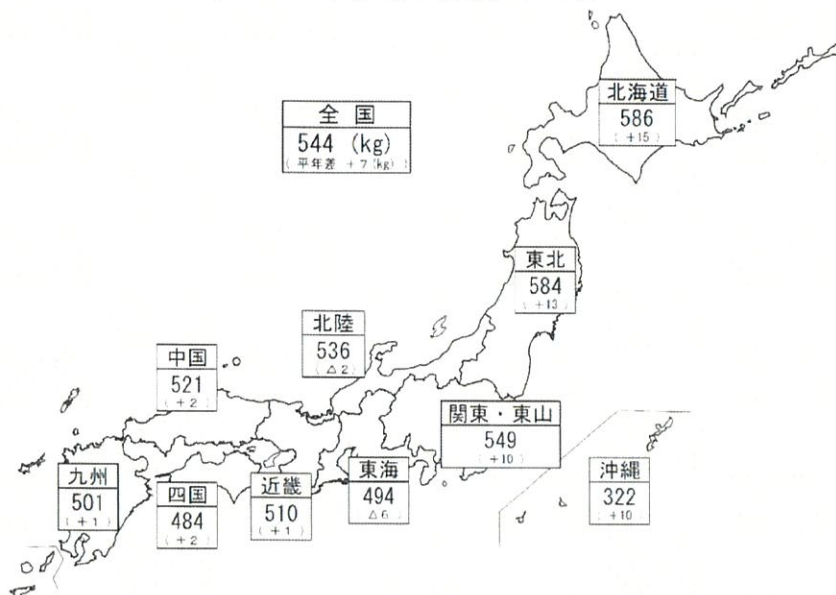
作物統計調査 令和6年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量

— 全国の10a当たり予想収量は544kgの見込み —

【調査結果の概要】

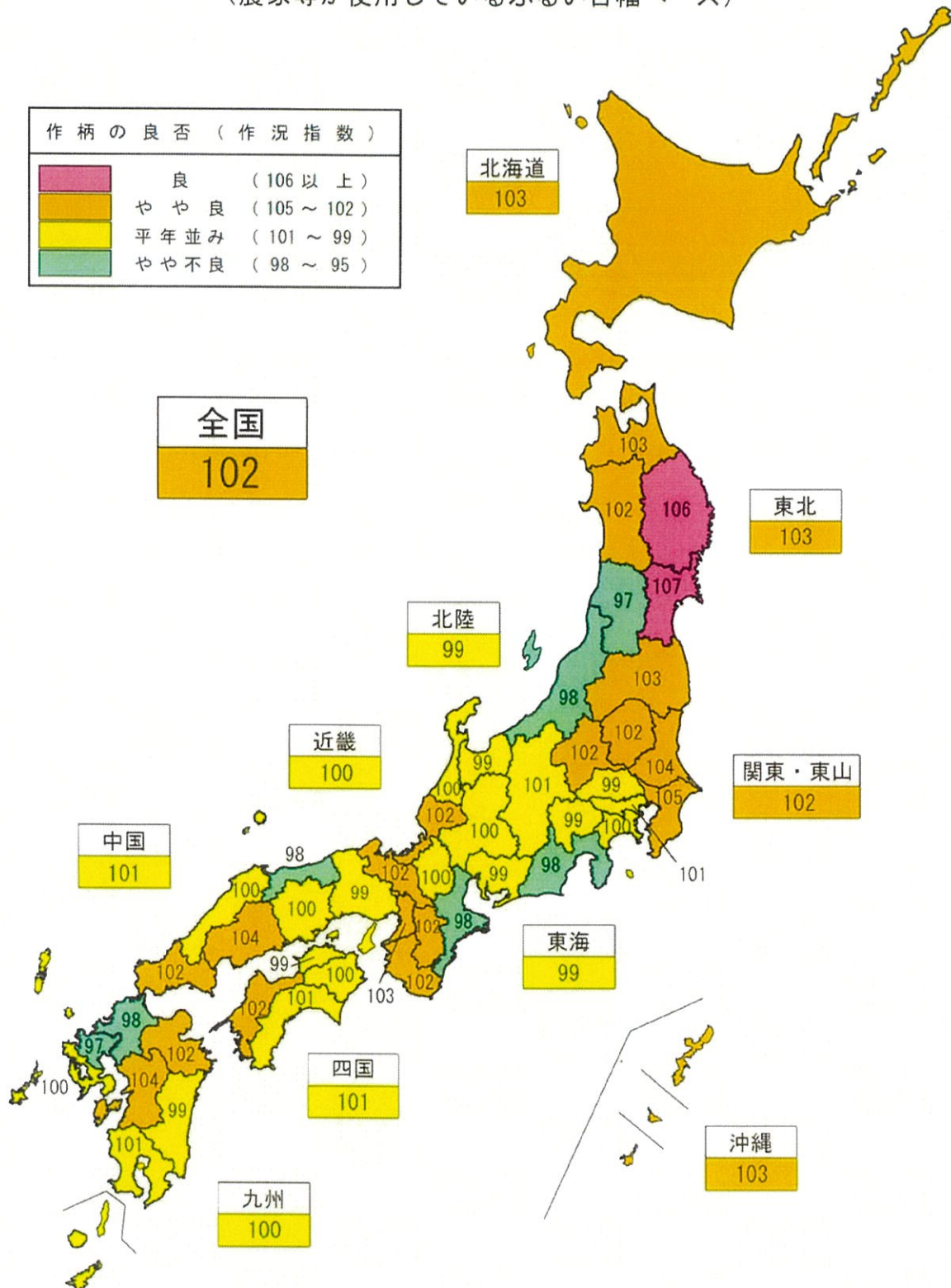
- 1 令和6年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は151万4,000ha（前年産に比べ1万7,000ha減少）と見込まれる。うち主食用作付面積は125万9,000ha（前年産に比べ1万7,000ha増加）と見込まれる。
- 2 9月25日現在における全国の10a当たり予想収量は544kgと見込まれる。
これは、一部地域で5月下旬から6月上旬にかけての低温や6月下旬から7月中旬にかけての断続的な日照不足等の影響があったものの、多くの地域で総じて天候に恵まれ、作柄は平年並み以上と見込まれるためである。
- 3 主食用作付面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は683万3,000t（前年産に比べ22万3,000t増加）と見込まれる。
- 4 農家等が使用しているふるい目幅ベースの全国の作況指数は102と見込まれる。

図1 全国農業地域別10a当たり予想収量（9月25日現在）
（1.70mmのふるい目幅ベース）



- 作付面積（青刈り面積を含む。）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積であり、主食用作付面積とは、作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積（9月15日時点）を除いた面積である（5ページの【参考1】参照）。
- 10a当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 10a当たり予想収量及び予想収穫量は、収穫を終えた地域では刈取り実測による結果であるが、一部収穫を終わっていない地域ではもみ数等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定した結果である。したがって、今後の気象条件等により変動することがある。

図2 全国農業地域・都道府県別作況指数（9月25日現在）
（農家等が使用しているふるい目幅ベース）



注：1 作況指数は、10a当たり平年収量に対する10a当たり予想収量の比率であり、都道府県ごとに、過去5か年に農家等が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。

2 徳島県、高知県、宮崎県及び鹿児島県の作況指数は早期栽培、普通栽培を合算したものである。また、沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから、沖縄県計の作況指数の算出は、第一期稲の10a当たり収量と第二期稲の10a当たり平年収量の加重平均を用いた。